

10回 廃炉研究開発連携会議 議事要旨

日時：令和4年2月25日（金） 10：00～12：00

場所：オンライン開催

1. 廃炉研究開発の取組状況と今後の方向性について

復興庁、経済産業省及び文部科学省から、福島国際研究教育機構の設置について報告があった。また、経済産業省、文部科学省及び東京電力から、廃炉研究開発の取組状況と今後の方向性について説明があった。これに対する主な意見は以下の通り。

- 廃炉事業が確実に進んでいるということは、復興への貢献において重要であり、関係者間の一層の連携が大事。
- 英知事業に新しく導入するリサーチサポーター（RS）は、研究成果の最大化に有効な施策になるのではないかと期待している。
- 福島国際研究教育機構は重要な施策であり、廃炉の推進や被災地の復興だけではなく、学術的、産業的な競争力の向上にも貢献するもの。各分野が有機的に連携できるようなコーディネートにより、遠隔技術やロボット技術などは医療や宇宙などの他分野へ応用・展開することもできる。広い視野で組織運営をお願いしたい。

2. 廃炉ニーズと研究シーズのマッチングの取組状況と今後の方向性について

IRID 及び JAEA から取組事例、東京電力から大学との産学連携の取組、NDF 及び JAEA から廃炉ニーズの分析・共有について説明があった。これに対する主な意見は以下の通り。

- 研究開発の中長期的な課題共有を NDF、JAEA、東京電力が連携して一つにまとめることは、メーカーとしても方向性が明確になり、何を担っていくかの指標にもなる。今後、具体的にどのように進めていくかが重要。
- 課題共有の具体的な中身は、NDF、JAEA 及び東京電力が既にそれぞれで整理しているものを、技術戦略プランの視点等を踏まえ、全体を俯瞰できるマトリックスのようなものに整理することを考えており、これにより、3年後、10年後、さらに先のものものニーズが見えてくるものと思料。
- これまで東京電力は JAEA などとお互い情報共有などをしてきたが、NDF が入り、3者がきちんとした形で課題を共有していく。それを廃炉研究開発連携会議でまとめていくことは大事であり、効率的な取組でもある。
- 10年近く取り組んできて、技術戦略プランや研究開発中長期計画、基礎・基盤研究の全体マップなど道具立てが整ってきた。当面必要なものや将来必要

なもの、シーズから派生していくものをどのように連携させて、戦略的に進めていくか一緒に議論したい。今後、デブリの取り出しに強力に立ち向かっていくには、より重要になってくる。

3. 人材育成の取組状況と今後の方向性について

NDF 及び JAEA から廃炉人材育成の取組状況と今後の方向性について説明があった。これに対する主な意見は以下の通り。

- 分析のみならず人材の確保・育成については、中長期実行プランを踏まえ、どのようなタイミングで、どういう人材が必要かという検討を進め、確保をしていく。特に喫緊の課題である分析の人材については、分析計画を立てられる人材が必要と考えており、国内外の関係機関の協力も得ながら進めたいと考えている。
- 学会は分析の専門家も多く、協力をさせてもらっている。人材のみならず、研究開発やデブリなども同様に、全体をマネジメントしていくところを明確にして進めていくことが重要。
- 分析のルール化を進めるに当たっては、新規の分析手法が取り入れづらくならないようにすることが必要。分析のマニュアルや規格も様々にあり、どれに合わせるかが難しい。新手法にも配慮した検討を進めてほしい。
- 分析人材の問題を難しくしているのは時間軸との闘い。JAEA の大熊や東京電力の分析施設で行う即戦力の分析人材の確保とともに、分析評価者などのワーカーをどう作っていくかを並行して進めなくてはいけない。また、全体の底上げも必要となってくる。新しく開始された原子力小委でも原子力の人材育成の議論が出てくるものと思料。そちらの議論の流れも今後お伝えしたい。

4. その他

次回会議日程は事務局で調整の上、連絡することとした。

(以 上)